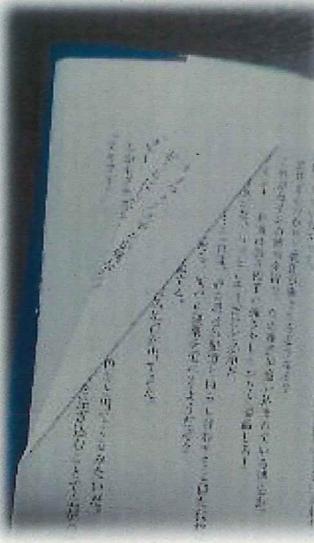


図書館だより

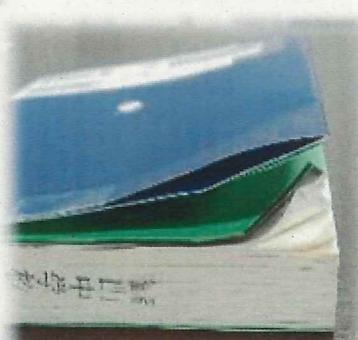
令和元年5月30日 発行
発行元：篠山中学校図書館

今年度の図書館での貸し出しを始めて約1ヶ月半。毎日、たくさん的人が図書館を利用してくれるので、「開けて良かったな」と、とても嬉しくなります。図書館の全てを管理しているパソコンが一台しかないのと、手続き待ちの時間がどうしてもできてしまいますが、一人でも多くの人が一冊でも多くの本に出逢うことができるよう、これから工夫していきます。みなさんも、ご協力お願いします。昼後の開館時間が短いので、クラスで協力して、「ごちそうさま」の時刻を守れるようにしてみると良いですね。

右の写真を見てください。これらは、返却された本です。ページが折れていたり、本の下部や表紙が折れています。これらの本は、どちらも、4月に入荷したばかりのものです。みなさんがたくさん手にとって、そして誰かが読み終わるのを待って、すぐに次の人に貸し出していく、とても人気の本です。図書館の本は、個人の持ち物ではありません。篠山中学校で生活する全校生徒十全職員の共有の財産です。「机に入っていたから…」は理由になりません。大切なのは「借りている」という意識です。次の人が嫌な気持ちにならないように、みんなで協力しましょう。



←折れたページ



↓折れた本の下部

本はみんな住所・番地を持っている!?

みなさんは、自宅から学校に通学していますよね。そして、放課後もまた自宅へ帰ることと思います。実は、図書館の本もみなさんと同じです。いつもおいてある所（住所）が決まっていて、借りられたりした後は、必ずその住所へ帰ります（もちろん、本は自分では歩かないので、文化委員やみんなの手で元の所へ戻すのですが）。でも、どうして元の所へ戻すことができるのでしょうか。

みんなの自宅の住所には、東沢田224のような番地がついています。この番地をもとに、郵便が届いたり、人が尋ねてきたりするのですが、図書館の本もみんなこれと同じように番地を持っているのです。その番地があるから、図書館の管理をする人は、本を探したり、本を元の所に置くことができます。言い方を変えると、本はすべて番地順に本棚に並んでいるのです（実は今はばらばらになっている棚もありますが…）。ということは、本の番地さえわかれば、本を探すのが簡単になるのです。では、本の番地はどうすればわかるのでしょうか。それは、本の背表紙の下の方を見ればいいのです。

図書館の本の背の下には、必ず右のように数字や記号が書いてあるラベルがはってあります。これが本の番地です。これは、「日本十進分類法」というきまりをもとにつけられています。日本中のほとんどすべての図書館で同じようにしていますので、このきまりの仕組みを知っておくと、たいていの図書館で本を探すのが楽になります。



家には住所・番地がある = 図書館の本にも住所・番地がある

知っていると ↓

家を探すのが楽になる

知っていると ↓

本を探すのが楽になる